

経年的に環境基準等を超過している地域等における対策の現状について

資料 4 - 1 の継続超過地域等について、関係自治体に対策の現状等について聞き取りを行った。その概要は以下のとおり。

1 継続超過地域

(1) ベンゼン

① 倉敷地域

春から秋にかけて濃度が高くなる傾向がある。

県の条例に基づき、ベンゼンの排出施設、排出量、対策計画と実績等について事業者から報告を受けている。また、地域の情報交流会において、自治体と事業者間でモニタリングデータ、削減対策等について情報交換を行っている。

発生源では、排ガス処理設備の設置等の対策を従来から順次実施しており、排出量は年々減少傾向にある。対策が完了する平成 21 年度以降は、定常的に環境基準以下になると期待されている。

② 坂出地域

発生源が隣接しており、また測定局の背後の地形が高くなっている影響もあり、風向等の気象条件により濃度が高くなり易い。

自治体では、隣接する事業者へのモニタリング結果の提供、発生源調査を行い、事業者においても自主測定を行っている。

当該事業者の平成 18 年度の排出量は、平成 13 年度比で約 1 / 4 に削減されているが、依然として高濃度が観測されることから、さらに必要な発生源対策を検討することとしている。

(2) ニッケル化合物

① 川崎地域

風向によって濃度が高くなる場合がある。

自治体では、発生源把握のため、風向別サンプリングや事業者と共同で同時測定を実施しているほか、発生源においては PRTR 対象施設以外に発生源がないかどうか調査を行っている。自治体では、発生源における対策の効果を確認した上で、さらに必要な対策について検討することとしている。

② 北九州地域

冬期の風向きによって濃度が高くなり、平均値が押し上げられることがある。

発生源においては、集塵機の管理強化、集塵機のばいじん濃度の測定等を

実施しており、自治体ではモニタリングを継続し、その効果を確認することとしている。

2 上昇傾向地域

(1) ベンゼン

① 千葉・市原地域

平成 17 年度は 6 地点で環境基準を超過したが、平成 18 年度の超過は 1 地点のみであった。本年 4 月からは、VOC 削減の県条例が施行されるため、VOC 全体の削減の中でベンゼンも更に削減されることが期待される。

地域全体のベンゼンの排出量は、平成 18 年度までに 11 年度比で 96%削減されている。また、大規模な発生源からの排出量は合計で平成 17 年度の 20 トンから 18 年度の 16 トンに削減されている。自治体ではモニタリングを継続することとしている。

② 川崎地域

地域で排出量が最大だった発生源においても、平成 18 年度は大幅に排出量が減少したが、濃度低減に直ちに結びついていない。18 年度は他の物質についても全般的に前年度より濃度が高めであった。

臨海地帯全域がベンゼンの発生源のため、概ね 1 トン以上の発生源にヒアリングを実施して、事業者への指導を行っている。

(2) ニッケル化合物

①新潟地域

昨年末に主な発生源と考えられる生産工程を廃止したことから、今後、大気環境への排出量は大幅に減少すると予想される。自治体ではモニタリングを継続することとしている。

②大分地域

発生源において、電機集塵機の導入、設備配置の見直し等の対策を実施しており、自主測定を開始している。自治体ではモニタリングを継続し、その効果を確認することとしている。

(3) 1,2-ジクロロエタン

①市原地域

平成 18 年度は指針値を下回った。地域全体における 1,2-ジクロロエタン排出量は、平成 16 年度の 32 トンから 18 年度の 19 トンに減少している。特に主要な発生源における排出量削減が進んでいる。自治体では、モニタリングを継続することとしている。

②倉敷地域

発生源において定期修理後の非定常操業時にベントガスが排出され、高濃度で検出した月があったため平均値が押し上げられた。

事業者は、非定常操業時のベントガス対策、老朽化した設備の更新を行い、自治体ではモニタリングによりその効果を確認することとしている。

③山口地域

風向きによって濃度が高くなり、平均値が押し上げられることがある。

発生源においては、非定常操業時におけるベントガスの排出対策を順次実施し、自治体ではモニタリングによりその効果を確認することとしている。

(参考)各継続超過地域等における対策の現状等について(概要)

1-1. 今年度の継続超過地域

(1)ベンゼン			
地域	平成17年度超過状況	平成18年度超過状況	主な対策内容
倉敷地域	超過地点:1測定局	超過地点:1測定局	・条例に基づき、排出施設、排出量、対策計画・実績等の報告 ・地域自主管理計画開始時に発足された交流会による、自治体と事業者の情報交換推進
坂出地域	超過地点:1測定局	超過地点:1測定局	・事業者へのモニタリング結果の提供、発生源調査の実施 ・事業者は自主的な測定を実施
(2)ニッケル化合物			
地域	平成17年度超過状況	平成18年度超過状況	主な対策内容
川崎地域	超過地点:1測定局	超過地点:2測定局	・事業者は、PRTR対象施設以外に発生源がないかどうか確認中 ・自治体は、事業者による対策の効果を確認した上で、今後の必要な対策について検討する予定
北九州地域	超過地点:1測定局	超過地点:1測定局	・事業者は、集塵機の管理強化、ばいじん濃度の測定等を実施 ・自治体は、モニタリングを継続し、対策の効果を確認していく

1-2. 今年度の上昇傾向地域

(1)ベンゼン			
地域	平成17年度超過状況	平成18年度超過状況	主な対策内容
千葉・市原地域	超過地点:6測定局	超過地点:1測定局	・公害防止協定に基づく排出実態及び排出抑制対策の状況把握 ・平成20年4月からVOC条例が施行されるため、VOC全体の削減に伴いベンゼンの排出量も更に削減される見込み。 ・地域全体において、平成11年度から18年度で排出量の96%を削減。
川崎地域	超過地点:なし	超過地点:1測定局	・当該地域におけるPRTR届出事業者は、排出抑制対策を実施している ・平成17年度に排出量が最大だった事業者についても、大幅に排出量を削減した
(2)ニッケル化合物			
地域	平成17年度超過状況	平成18年度超過状況	主な対策内容
新潟地域	超過地点:なし	超過地点:1測定局	・主要な発生源となっている生産工程を同社の他の事業場に集約したため、排出量が大幅に削減される見込み
大分地域	超過地点:なし	超過地点:1測定局	・事業者は、電機集塵機の導入、設備配置の見直し等の対策を実施 ・自治体は、モニタリングを継続し、対策の効果を確認していく
(3)1,2-ジクロロエタン			
地域	平成17年度超過状況	平成18年度超過状況	主な対策内容
市原地域	超過地点:1測定局	超過地点:なし	・主要な発生源における排出量削減が順調に進んでいる ・市原地域において、平成16年度から平成18年度で、PRTR排出量の40%削減
倉敷地域	超過地点:なし	超過地点:1測定局	・事業者は、非定常操作時のベントガス対策を実施 ・自治体は、モニタリングを継続し、対策の効果を確認していく
山口地域	超過地点:なし	超過地点:1測定局	・事業者は、排ガス処理施設設置等の対策を実施 ・自治体は、モニタリングを継続し、対策の効果を確認していく

2-1. 昨年度の継続超過地域

(1)ベンゼン			
地域	平成17年度超過状況	平成18年度超過状況	主な対策内容
千葉・市原地域	・今年度は上昇傾向地域		・対策については、前述のとおり
倉敷地域	・今年度も継続して継続超過地域		・対策については、前述のとおり
地域	平成17年度超過状況	平成18年度超過状況	主な対策内容
大牟田地域	超過地点:1測定局	超過地点:なし	・事業者において発生源となるプラントを停止したため、モニタリング濃度が大幅に低減した
(2)ニッケル化合物			
地域	超過状況		主な対策内容
川崎地域	・今年度も継続して継続超過地域		・対策については、前述のとおり
地域	平成17年度超過状況	平成18年度超過状況	主な対策内容
室蘭地域	超過地点:1測定局	超過地点:なし	・平成17年より、室蘭市及び事業者による環境保全連絡会を実施 ・3ヶ年の環境保全計画を実施し、今年度中に最終報告を発行予定
安来地域	超過地点:1測定局	超過地点:なし	・事業者は、集塵機の増設、集塵効率の向上等を実施 ・自治体は、平成17年度から測定局を増設し、対策の効果を確認している

2-2. 昨年度の上昇傾向地域

(1)ベンゼン			
地域	超過状況		主な対策内容
川崎地域	・今年度も継続して上昇傾向地域		・対策については、前述のとおり
坂出地域	・今年度は継続超過地域		・対策については、前述のとおり
地域	平成17年度超過状況	平成18年度超過状況	主な対策内容
富津地域	超過地点:1測定局	超過地点:なし	・自治体と事業者で結んでいる公害防止協定に基づく、排出抑制対策指導の実施 ・漏洩の多い施設への対策設備の導入を検討
堺地域	超過地点:なし	超過地点:なし	・自治体は、平成17年度から追加的なモニタリングの実施 ・モニタリング及びPRTRの結果を基に、排出抑制対策を指導
(2)1,2-ジクロロエタン			
地域	超過状況		主な対策内容
市原地域	・今年度も継続して上昇傾向地域		・対策については、前述のとおり
地域	平成17年度超過状況	平成18年度超過状況	主な対策内容
神栖地域	超過地点:1測定局	超過地点:なし	・事業者は、排出ガス燃焼装置等を実施 ・自治体は、モニタリングを継続し、対策の効果を確認していく
(3)クロロホルム			
地域	平成17年度超過状況	平成18年度超過状況	主な対策内容
和歌山地域	超過地点:1測定局	超過地点:なし	・事業者が工場の操業を停止したため、モニタリング濃度が大幅に低減した